



本号の内容

- ・ 公明党代表を始めとする党関係者が陽子線医学利用研究センター視察
- ・ 平成18年度前期日程合格者発表
- ・ 第1回大学病院PFI導入におけるリスク分担調査検討会議開催
- ・ 世界のリーガル・リサーチ アーカイブ(三浦コレクション)一般公開と研究会開催
- ・ 日韓共同理工系学部留学生第6期生予備教育修了式開催
- ・ 第10回おおた工業フェアに出展
- ・ 産学連携プラザ2006に出展
- ・ 第27回荒川区産業展に出展
- ・ 全国都道府県在京文教担当者連絡協議会関係者一行が産学リエゾン共同研究センター(ILC)見学
- ・ タイのUdon Thani Rajabhat大学理事長一行が産学リエゾン共同研究センター訪問
- ・ ロボットスーツHALの開発状況を附属桐が丘養護学校研修会で紹介
- ・ 国際協力機構・筑波大学によるチリ算数数学教育プロジェクト開始

お知らせ..... 6

- ・ 学群改組計画正式決定
- ・ ReaD研究者情報更新依頼一括回答
- ・ 大学会館前ループ道路片側通行止
- ・ 新TULIPSサービス開始とパスワード変更
- ・ 年度末における計算機システム運用休止
- ・ 数理解析科学研究所物性・分子工学専攻のFAX番号変更
- ・ 液体窒素・液体ヘリウム供給停止と低温寒剤利用に関する説明会開催

各種表彰等..... 8

その他..... 9

- ・ 平成18年度附属学校入学式日程及び会場
- ・ 平成18年2月に制定された法人規則等一覧
- ・ 平成18年度「速報つくば」発行予定

2006 06

2006年06号(通巻1121号)
発行: 筑波大学
編集: 総務・企画部
発行日: 平成18年3月23日

社会貢献プロジェクトの成果報告とパネルディスカッション 「子育てのわ 2006 つどい, つなぐ, つくばの子育て・子育て支援」を開催



工藤典雄副学長(総務・企画)の挨拶

3月4日, 筑波大学総合研究棟Dの公開講義室において, 表記テーマで報告・パネルディスカッションが開催されました。この報告会・パネルディスカッションでは, 来賓の栗原英男つくば市助役から市原健一つくば市長のメッセージが紹介され, 続いて工藤典雄副学長(総務・企画担当)の挨拶がありました。

引き続き, 平成16・17年度筑波大学社会貢献プロジェクトに採択された飯田浩之助教授(人間総合科学研究科)の「大学の協力による, つくば市における子育て支援ネットワークの構築活動」の成果報告及びプロジェクトと協力関係にあるつくば市の「つくば子育て広場」の事業報告がありました。次いで『「子育て」の場づくりをめざして』をテーマに, 徳田克己教授(人間総合科学研究科)をコメンテーターとして, 5名のパネリストによる活発なディスカッションが展開されました。最後に子育て支援ネットワーク「かるがも・ねっと」の発足会が行われ, つくば市地域子育て支援センターや子育てサークル等約60の機関・団体・個人が参加するネットワークが正式に発足しました。



パネルディスカッションの様子

公明党代表を始めとする党関係者が陽子線医学利用研究センターを視察

公明党代表の神崎武法衆議院議員、同党がん対策推進本部副本部長の斉藤鉄夫衆議院議員及び関係者が、3月6日に陽子線医学利用研究センターを視察しました。これは、同党が、がん対策の推進を党の重要事項として掲げており、最先端の陽子線照射装置によるがん治療の現場を視察したものです。神崎代表らは、秋根康之センター長らの案内により、照射室、治療照射装置（回転ガントリー）、加速器などの施設を見学後、秋根センター長からセンター概要の説明を受けました。引き続き行われた質疑応答では、工藤典雄副学長（総務・企画）、山口巖附属病院院長及び附属病院関係者と、陽子線治療の特徴や現状、今後の展望や課題等について、活発な意見交換を行いました。

左：左から、機器の説明をする秋根康之センター長 神崎武法代表、斉藤鉄夫議員
右：活発に意見交換する神崎武法代表（左）と斉藤鉄夫議員（右）



1,515人に笑顔の春
平成18年度前期日程合格者発表
- 学務部入試課 -

3月8日に前期日程の合格者1,515人を発表しました。現学群としては最後となる前期日程は、募集人員1,263人に対し4,409人の志願があり、志願倍率は3.5倍(昨年3.6倍)で、昨年比0.1ポイントの減となりました。第1段階選抜に合格した4,307人のうち4,167人が第2段階選抜に臨みました。現役合格者の比率は76.0%で、昨年比約1ポイントの増となりました。また、合格者の出身高等学校所在都道府県別では、引き続き、茨城県がトップで197人(昨年比19人減)、以下、東京都157人(同55人増)、埼玉県102人(同9人増)、栃木県84人(同24人増)、千葉県78人(同2人増)、静岡県59人(同4人減)、神奈川県59人(同2人増)の順となりました。

当日は春めいた日差しの中、10:00に本部棟南側駐車場の掲示板に合格者の受験番号が張り出されると、待ちかまえていた受験生や家族らが一斉に集まり、自分の番号を見つけて「あった、あった」と歓声を上げていました。アメリカン・フットボール部員による恒例の胸上げで合格者が次々と宙に舞う姿や応援団のメンバーにエールを送られたり、家族に携帯電話で連絡したり、友人同士や保護者と合格を喜び合ったり、さらに自分の番号を記念撮影する姿など、笑顔が随所に満ち溢れていました。



アメリカンフットボール部員による恒例の胸上げ

なお、合格者の受験番号は、14日まで本学公式ホームページにも掲載され、約2万件のアクセスがありました。

第1回大学病院PFI導入におけるリスク分担調査検討会議が開催される
- 施設部施設企画課 -

文部科学省より「大学附属病院再開発に係るPFIによる整備の実現可能性に関する調査研究」の委嘱を受け、附属病院の再開発事業計画をモデルにしたPFI事業の調査研究の一環として、第1回大学病院PFI導入におけるリスク分担調査検討会議を、2月1日に経営協議会室（本部棟8階）で開催しました。

趣旨としては、国立大学の附属病院は高度先端医療や地域の中核的医療機関としての役割を果たすとともに、一般の医療機関とは異なる臨床医学の教育研究の場としての役割を果たしています。しかし、老朽化等が進み、最先端医療や新たな使命への対応が困難な大学も多くなってきていることから、これまで順次再開発整備を進めてきているという状況です。また、国の財政負担を軽減し、大学の整備要望に応えていくためには整備手法の多様化を図り、より効果的、効率的な再開発手法を実

現する必要があります。この会議は、これらの状況を踏まえ複雑で多様なシステムを持つ国立大学附属病院について「各種制度やその運用」、「病院における運営・経営面の事業への反映」等PFI手法の実現可能性の可否を決定する重要な要件を本学の計画をモデルとして具体的に検証することを目的として、山口巖附属病院長を委員長として15名の委員、医業経営コンサルタントである(株)アイテック等5名の専門委員で構成しています。



中央は、山口巖附属病院長

世界のリーガル・リサーチ
アーカイブ(三浦コレクション)
の一般公開と研究会が開催される
- ビジネス科学研究科
法曹専攻 -

法律専門洋書店「三浦書店」(東京・千代田区)の三浦充氏が20年以上にわたって収集した、1,000点に及びリーガル・リサーチ・ツールを2月22日~3月18日の間、大塚図書館秋葉原分室に展示しました。世界各国のリーガル・リサーチに関する書籍のコレクションとして国内随一のものではないかと思われるもので、展示を公開するとともに、コレクションをもとに、次の2回の研究会を開催しました。三浦氏に収集の動機や方法をたずね、またコンメンテーターに特徴的な資料の話の話を聞きました。多方面の参加者(研究者、弁護士、書店・出版社、図書館員、弁護士事務所職員)を得て活発な議論となりました。

2月22日 主催：情報ネットワーク法学会法情報基礎理論研究会
ロー・ライブラリアン研究会
コンメンテーター：山本順一教授(図書館情報メディア研究科)
3月11日 主催：法律図書館連絡会
コンメンテーター：中網栄美子客員講師(早稲田大学法科大学院)



左：三浦コレクションの一部
右：研究会の様子



日韓共同理工系学部留学生第6
期生予備教育修了式が開催され
る
- 留学生センター -

日韓共同理工系学部留学生第6期生の予備教育修了式が3月3日16:00から留学生センター研修室で行われました。昨年10月来日して約半年の予備教育を終えた第6期生7名は、4月に学類に入学し、それぞれ自然、生物資源、情報、工学システムに在籍します。この留学プログラムは日韓両国首脳の会談から平成12年より始まり、平成22年度を目途に、韓国の上高等学校卒業生計1,000人を日本の理工系学部を有する大学へ招致し、最先端技術・知識を習得するとともに、留学生交流を通じた日韓間の相互理解の増進に寄与することを目的としています。筑波大学には毎年5名前後が入学し、現在、第2期生から第5期生まで計22名が、自然・生物・生物資源・社会工学・国際総合・情報・工学システム・工学基礎の各学類に在籍しています。



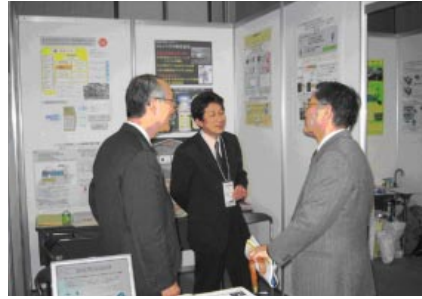
左：カイザー留学生センター長
による修了証授与
右：修了式の様子



第10回おおた工業フェアに出展
- 研究事業部産学連携課 -

2月16～18日の3日間の日程で、大田区産業プラザPioにおいて「第10回おおた工業フェア」が開催されました。

「おおた工業フェア」は、大田区企業の高度な技術・技能を広くアピールし、ビジネスチャンスの拡大を図ることを目的として毎年開催され、今回で10回目を迎えています。



本学ブースでの来客者対応の様子

産学連携課では、産学リエゾン共同研究センターと協力して出展し、本学の研究成果や産学連携活動についての紹介及び技術移転マネージャーによる科学技術相談を行いました。本学の研究成果に興味を持った企業や地元の方々が多数本学ブースを訪れ、3日間とも盛況なフェアとなりました。

産学連携プラザ2006に出展
- 研究事業部産学連携課 -

3月9日13:25～17:30の日程で、パレスホテル立川において「産学連携プラザ2006」が開催されました。

「産学連携プラザ2006」は、財団法人東京都中小企業振興公社の、多摩地域における産業振興拠点である多摩中小企業振興センターが主催し、地域産業の活性化を担う企業や製品・技術の育成を図ることを目的とし、中小企業が産学連携による製品・技術開発へ踏み出すための契機となる場として開催され、製品開発や産学連携に積極的に取り組む企業100社が参加しました。

産学連携課では、産学リエゾン共同研究センターと協力して出展し、本学の研究成果や産学連携活動についての紹介、並びに



本学ブースでの来客者対応の様子

産学官連携コーディネーター及び技術移転マネージャーによる科学技術相談を行いました。産学連携に意欲的に取り組む企業限定の企画であったため、本学ブースには多くの企業の方々が訪れ、科学技術相談や質問など、活発な交流が行われました。

第27回荒川区産業展に出展
- 研究事業部産学連携課 -

3月11、12日の2日間の日程で、荒川総合スポーツセンターにおいて「第27回荒川区産業展」が開催されました。

「荒川区産業展」は、荒川区内の産業の振興に資するため、「製造業を中心とした区内の優れた製品・技術を区内外に広く紹介する」、「企業相互及び産・官・学交流の場を創出する」及び「地域産業に対する区民の理解を深め、新たな産業の担い手となる人材の育成を図る」の3つの視点から開催されたものです。



説明する中内靖助教授

産学連携課では、本学の研究成果や産学連携活動について及び筑波大学発ベンチャーについて、ポスター展示による紹介を行いました。また、中内靖助教授（システム情報工学研究科）の研究成果である「調理作業支援システム」が展示され、中内助教授及び研究室の大学院生による解説及び実演が行われ、多くの見学者を集めていました。

全国都道府県在京文教担当者連絡協議会関係者一行が産学リエゾン共同研究センター（ILC）を見学
- 産学リエゾン
共同研究センター -
- 研究事業部産学連携課 -

2月28日に、全国都道府県在京文教担当者連絡協議会研修事業の一環として、同協議会委員約35名が、本学の産学連携の窓口機関として機能する産学リエゾン共同研究センター（ILC）を見学しました。

最初に、ILCの谷田員豊彦センター長から「産学リエゾン共同研究センターの事業活動」について説明があり、その後、ILC共同研究プロジェクト代表者の中村潤児教授（数理物質科学研究科）のプロジェクト室を見学、「カーボンナノチューブの

表面科学的研究と燃料電池、水素吸蔵材料および大量合成への応用」の説明を受けました。見学者からは、カーボンナノチューブについての研究概要や成果などについて活発な質疑があり盛況な見学会となりました。

左：ILCを紹介する谷田貝豊彦センター長
右：中村プロジェクト見学の様子



タイのUdon Thani Rajabhat
大学理事長一行が産学リエゾン
共同研究センターを訪問
産学リエゾン
共同研究センター -

3月14日に、タイの Udon Thani Rajabhat 大学理事長一行15名が、産学リエゾン共同研究センター（ILC）を訪問しました。
この訪問は、昨年11月18日にILCを訪問した同大学副理事長一行から、大変有意義であった旨の報告を受けた同大学理事長の強い希望により実現したものです。
まず、ILCの菊本虔教授（人間総合科学研究科）から「ILCの概要紹介」について説明があり、その後、熱心な質疑応答が行なわれました。続いて、ILC創業支援プロジェクトの一つである松村プロジェクトの中村信行研究員から、「タイに農園を展開しヒマワリの種からバイオディーゼルまで一貫生産する計画」についてプレゼンテーションが行われました。一行は、タイでのプロジェクトに大変興味深い様子で、ここでも熱心な質疑応答が行われました。

左：センターの紹介をする菊本虔教授
右：プレゼンテーションを行うサンケアフューエルズ（株）の中村信行研究員



ロボットスーツHALの開発状況を
附属桐が丘養護学校研修会で
紹介

3月1日、附属桐が丘養護学校情報部主催のもと、山海嘉之教授（システム情報工学研究科）を講師に招き、校内研修会が行われました。
山海教授は、高齢化社会を迎える日本は勿論のこと、世界中の注目を集めているアシスティブテクノロジーの展望と課題について、研究室で開発中のロボットスーツHALを中心に解説し、いろいろな興味深い映像などを取り混ぜながら、非常に高度で専門的な技術分野について、教職員にも分かりやすく話しました。
肢体不自由を主とした障害を持つ児童生徒が学んでいる同校では、この分野に興味や関心を持つ生徒達や保護者の方々、同校と密接な協力関係にある心身障害児総合医療療育センターの方々にも多数参加いただきました。
講演終了後も、しばらくの間山海教授の周りには人垣ができ、熱心な質問が寄せられました。

左：熱心に聴講する教職員及び生徒
右：中学部生徒と談笑する山海嘉之教授（右）



国際協力機構・筑波大学による
チリ算数数学教育プロジェクト
が開始される

教育開発
国際協力研究センター -

教育開発国際協力研究センター（CRICED）では、文部科学省の要請により、一昨年の日本・チリ首脳会談において約束された国際協力機構（JICA）によるチリ国算数数学教育プロジェクトを推進することになりました。

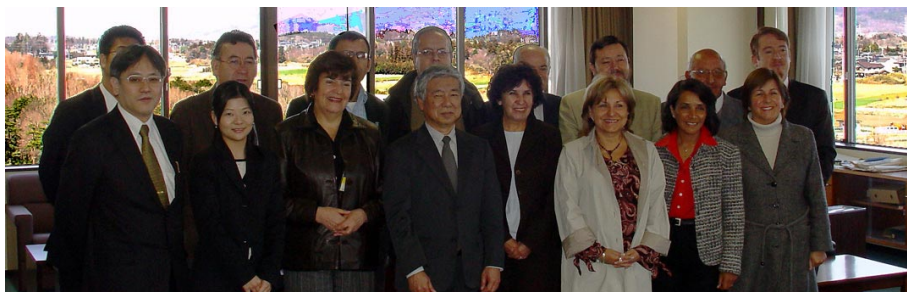
経済発展に伴う格差増大に憂えるチリ教育省は、経済産業振興の基幹教科として算数数学科を認め、小中学校算数数学教員再教育プロジェクトを17大学に委託して実施しています。このJICAプロジェクトでは、筑波大学数学教育学研究室と附属小学校算数部、附属中学校数学科の支援を得て、教員再教育プロジェクトの質を改善します。具体的には、毎年、チリ教育省から2名、大学数学教育担当教員10名を受け入れて研修を実施します。加えて平成18年度概算要求で連携融合事業の増額も文部科学省から認められ、筑波大学として算数数学教員再教育プロジェクトに係る共同研究をチリ教育省と直接進めることができるようになりました。

この度、チリ算数・数学教育プロジェクト研修団が2月14日に来学し、附属小学校、附属中学校、大学において研修を1ヵ月間受けました。研修団は、3月10日に文部科学大臣を、3月14日には副学長を表敬し、日チリ首脳会談での合意をふまえ筑波大学での研修と今後の共同研究の推進への期待を述べました。

このチリ協力により、筑波大学におけるJICA数学教育関連プロジェクト技術協力の推進は、1993年のフィリピン理数科教員研修プロジェクト以来、7ヵ国目になります。

工藤典雄副学長（総務・企画：国際連携
担当）を囲むチリ研修団一行

左端はこのプロジェクトを担当する磯田正美助教授（人間総合科学研究科、CRICED）、同3人目から右にNAVARRO国立教育研究所プロジェクトコーディネータ、工藤典雄副学長、VENEGAS教育省数学調査官



お知らせ

学群改組計画を正式に決定

- 総務・企画部企画課 -

学群改組については、平成16年度以降全学的体制のもとで検討を進めてきましたが、3月23日、文部科学省への設置報告書の提出をもって、改組計画を正式に決定しましたのでお知らせします。

今後、平成19年4月の設置・学生受け入れに向けて設置準備を進めていくことになります。なお、学群改組に関する情報は、本学ホームページの「入試情報」に掲載しておりますので参照ください。また、学群改組に関するリーフレットを現在作成中ですが、完成次第、教職員の皆様に配付する予定です。

ReaD研究者情報更新依頼への
一括回答について（TRIOS）

- 研究事業部研究事業課 -

独立行政法人科学技術振興機構からの研究開発支援総合ディレトリ（ReaD）への研究者情報更新依頼に対し、昨年度より本学は大学全体として一括して電子データで回答しています。本年度については、筑波大学研究者情報システム（TRIOS）の3月30日時点でのデータを用いて回答を作成します。

つきましては、3月29日までに、先生方のTRIOS中のデータを更新し、「ReaD対応サブシステム」で提供内容を確認してください。

なお、ReaDへの情報提供に同意していただくためには、「ReaD対応サブシステム」で「<外部への情報公開> ReaD研究者調査への提供の可否」欄の「提供する」にチェックが入っていなければなりません。

参考・TRIOS <https://trios.tsukuba.ac.jp/>

・ReaD対応サブシステム（TRIOSログイン画面からもリンクしています。）
<https://read.trios.tsukuba.ac.jp/>

・ReaD対応サブシステムでのReaD提出内容確認方法
画面下部に表示されている「データ出力」ボタンを押すことで開くサブウィンドウの「ReaD提供データ確認」ボタンを押す。

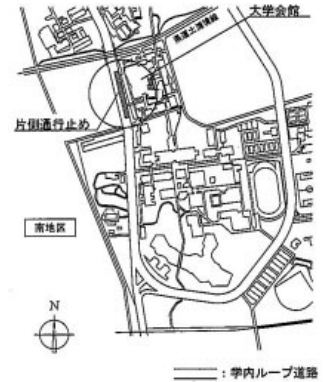
・ログインパスワードの変更について

昨年12月より、TRIOSのパスワードはTWINS（UまたはG）の現在使用されているパスワードと共通となっていますので、間違えないようにしてください。なお、TWINSでパスワードを登録していない場合（初期パスワード以外を設定していない場合）は利用できませんので、一度TWINSにログインし、パスワードを登録した後、TRIOSへアクセスしてください。

大学会館前ループ道路片側通行止のお知らせ

- 施設部施設整備課 -

筑波大学30周年記念事業総合交流会館新営工事仮設山留め工引き抜きによるレッカー車駐車のため、次の期間、大学会館前ループ道路を片側通行止めしますので、協力願います。
期間：3月25日（土）、26日（日）
場所：大学会館前ループ道路（右図参照）



新TULIPSサービス開始とパスワードの変更について

- 附属図書館 -

図書館のWebページで提供しているTULIPSが新しくなりました。

（URLは従来と同じです。http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/）

キーワードを入れて検索ボタンを押すだけで複数のデータベースが同時に調べられ、論文オリジナルや複写依頼画面へのリンク機能も充実しているうえ、自分の参考文献リストも作れるとても便利なシステムです。是非、利用してください。これに伴い、マイライブラリなど各種サービスにログインする時のIDとパスワードが変りました。今後は学術情報メディアセンターの全学統一認証システムによるパスワード管理となりますので、承知おきください。

ID（アカウント）は職員証のバーコードの数字13桁（11桁や12桁ではエラーとなりますので注意してください。）

新たに設定したパスワードは次のとおり（変更画面から変えてご利用ください。）

教 員：TWINSの初期パスワードとして紙で配付したものです。忘れた場合は、パスワード再交付場所に職員証を持参のうえ、申し出てください。

事務職員：パスワード再交付場所に職員証を持参のうえ、申し出てください。

パスワード再交付場所は次のとおり

学術情報メディアセンター事務室 同春日ランチ

中央図書館レファレンスデスク 医学図書館レファレンスデスク

大塚図書館カウンター

受付時間：平日の9:00～17:00（大塚図書館は開館時間内）

- ・図書購入や研究費等による文献複写をWebから依頼する時に使用している予算登録コードについても、今回再設定しパスワードが初期化されます。
- ・すでにWebサービスを登録されている教員の方へは、個別にパスワードを配付します。

年度末における計算機システム（スーパーコンピュータ）の運用休止について

- 学術情報メディアセンター -

スーパーコンピュータ（mimosa）を次の期間運用休止します。なお、ジョブフリーズは実施しません。

3月31日（金）19:00～4月3日（月）9:00

教育用計算機（icho）、汎用サーバ（sakura）及び高性能クラスタ計算機（kaede）は通常どおり運用します。

数理物質科学研究科物性・分子工学専攻のFAX番号変更について

4月1日より、数理物質科学研究科物性・分子工学専攻（旧物質工学系）のFAX番号が次のとおり変更になります。

新FAX番号：029-853-4490（現在の番号：029-855-7440）

液体窒素・液体ヘリウムの供給停止，低温寒剤（液体窒素・液体ヘリウム）利用に関する説明会の開催について

- 研究基盤総合センター
低温部門 -

液体窒素・液体ヘリウムの供給停止について

低温部門では，高圧ガス製造設備保安検査（茨城県立会い）のため，4月20日（木）の液体窒素・液体ヘリウムの供給を停止します。

低温寒剤（液体窒素・液体ヘリウム）利用に関する説明会の開催について
低温寒剤利用に関する説明会を，次により開催します。これまでに説明会に出席されていない方は，全員出席してください。

対 象：教職員，学生

日 時：4月12日（水）12:30～14:00，13日（木）15:30～17:00

どちらか都合のよい日に出席してください。

なお，開催日によって時間が違いますので，注意してください。

場 所：第三学群A棟3A204

この説明会を受講しない場合，低温部門・自然科学系タンク・第三学群タンクにおいて寒剤を使用することはできません。

各種表彰等

山本泰彦教授がノバルティス科学振興財団から平成17年度ノバルティス研究奨励金を受ける

山本泰彦教授（数理物質科学研究科，化学専攻）は，研究課題「耐熱性電子伝達タンパク質の作用機構の解明とバイオ素子への応用」により，ノバルティス科学振興財団から平成17年度ノバルティス研究奨励金を受贈しました。

ノバルティス科学振興財団は，自然科学における独創的な研究に対する援助・支援を行っています。採択された研究課題で，山本教授の研究グループは，電子伝達タンパク質シトクロムcの耐熱性発現機構の解明を目指します。



北川博之教授が情報処理学会フェローに認証される



北川博之教授（システム情報工学研究科，コンピュータサイエンス専攻，計算科学研究センター（計算情報学研究部門））は，「データベースシステムの高機能化および情報統合に関する研究」の功績により，情報処理学会フェローとして認証されました。情報処理学会第68回全国大会においてフェロー認証式が行われました。

谷口祥一助教授がMarquis Who's Who in the World, 2006に掲載される

谷口祥一助教授（図書館情報メディア研究科，図書館情報メディア専攻）は，Marquis Who's Who in the World, 2006に掲載されました。大量の情報資源・知識資源に対するメタデータ，書誌データ等を用いた情報組織化という課題に対して，対象資源の概念レベルのモデリング，組織化行為自体のモデリングなどに焦点を当て新たな提案を行うなど，一連の研究が評価されての掲載となりました。



岩本義輝助教授及び尾崎繁講師指導の人間総合科学研究科2年梅津大輔氏（指導教員：山中敏正教授）が2005年度自動車技術会大学院研究奨励賞を受賞

人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻では，岩本義輝助教授及び尾崎繁講師指導の2年梅津大輔氏（指導教員：山中敏正教授）が「頸部筋活動を用いたドライバ・ビークル・マッチング評価の試み」の研究により，2005年度社団法人自動車技術会大学院研究奨励賞を受賞しました。



左から，実験終了後の梅津大輔氏，尾崎繁講師，岩本義輝助教授

この賞は，自動車技術とその関連分野において学業の向上発展を奨励することを目的とし，大学院で優れた研究を行なった大学院生に授与されるものです。自動車技術と人体生理学を融合させ，ドライバの感じ方を客観的に捉える方法を提示した独創性が高く評価されました。

鈴木雅和教授指導の芸術研究科修士1年岡部諭紀氏，竹内淑恵氏及び林真紀子氏が，日本建築学会関東支部第7回提案競技設計コンペで優秀賞を受賞

鈴木雅和教授指導の芸術研究科1年岡部諭紀氏，竹内淑恵氏及び林真紀子氏が，日本建築学会関東支部主催の第7回提案競技「美しくまちをつくる，むらをつくる」の設計コンペにおいて，「環境デザイン演習C」の授業の課題で制作した「おんのむら甲州」により優秀賞を受賞し，2月18日に賞状と賞金を授与されました。なお，作品は3月10日まで，甲州市勝沼ぶどうの丘イベントホールホワイエに展示されました。



作品と，左から林真紀子氏，岡部諭紀氏，竹内淑恵氏

その他

平成18年度附属学校入学式日程及び会場

学 校 名	日	時	会 場
附属小学校	4月 8日（土）	10:00～	附属小学校講堂
附属中学校	7日（金）	10:00～	附属中学校育鳳館
附属駒場中学校	11日（火）	9:00～	附属駒場中・高等学校体育館
附属高等学校	10日（月）	9:00～	附属中・高等学校体育館
附属駒場高等学校	11日（火）	10:30～	附属駒場中・高等学校体育館
附属坂戸高等学校	7日（金）	10:00～	附属坂戸高等学校体育館
附属盲学校	7日（金）	9:30～	附属盲学校体育館
附属聾学校	11日（火）	10:00～	附属聾学校体育館
附属大塚養護学校	12日（水）	9:30～	附属大塚養護学校体育館
附属桐が丘養護学校	11日（火）	10:00～	附属桐が丘養護学校体育館
附属久里浜養護学校	7日（金）	9:30～	附属久里浜養護学校生活・運動学習センタープレイルーム

平成18年2月に制定された法人規則等一覧

平成18年2月に制定された次の法人規則等の全文については，筑波大学ホームページの「広報・公開」で閲覧できます。

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則の一部を改正する法人規則

国立大学法人筑波大学学群学則の一部を改正する法人規則

国立大学法人筑波大学医療技術短期大学部学則の一部を改正する法人規則

国立大学法人筑波大学附属学校校則の一部を改正する法人規則

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則施行規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学職員の服務監督者に関する規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学職員職務評価規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学法人文書管理規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学文書処理規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学クラスに関する規程

国立大学法人筑波大学附属学校教育局附属学校管理規程の一部を改正する附属学校教育局規程

国立大学法人筑波大学附属学校専攻科規程の一部を改正する附属学校教育局規程

平成18年度「速報つくば」発行予定

号	原稿締切日	発行日
07号	平成18年3月30日(木)	平成18年4月 5日(水)
08号	4月13日(木)	19日(水)
09号	27日(木)	5月 8日(月)
10号	5月18日(木)	24日(水)
11号	6月 1日(木)	6月 7日(水)
12号	15日(木)	21日(水)
13号	29日(木)	7月 5日(水)
14号	7月13日(木)	20日(木)
15号	8月31日(木)	9月 6日(水)
16号	9月14日(木)	21日(木)
17号	28日(木)	10月 4日(水)
18号	10月12日(木)	18日(水)
19号	26日(木)	11月 1日(水)
20号	11月 9日(木)	15日(水)
21号	24日(金)	30日(木)
22号	12月 7日(木)	12月13日(水)
23号	21日(木)	27日(水)
01号	平成19年1月 4日(木)	平成19年 1月11日(木)
02号	18日(木)	24日(水)
03号	2月 1日(木)	2月 7日(水)
04号	15日(木)	21日(水)
05号	3月 1日(木)	3月 7日(水)
06号	15日(木)	22日(木)

「速報つくば」について

「速報つくば」の次回(通巻1122号)の発行は4月5日(水),原稿締切りは3月30日(木)となります。

学内行事,イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお,「速報つくば」への寄稿に際しては,次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については,受賞者氏名,所属,受賞名,簡単な賞の説明,受賞対象論文名等(掲載誌のページ等は省略願います。)とし,授賞式の日時,場所等については,必要がある場合等を除き,省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は,なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用の原稿は,Web上に掲載しますので,了承願います。また,文教速報(官庁通信社発行),文教ニュース(文教ニュース社発行)及びSTUDENTS(学生部発行)等からの情報提供依頼があった場合は,掲載情報(写真等を含む。)を提供しますので承知おきください。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は,次のアドレスで閲覧できます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース,写真の提供及び掲載内容への意見は広報課(TEL2065, FAX2014)へお願いします。

E-mail: sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿した方には,「速報つくば」より原稿受付等の返信メールを送りますので,確認ください。なお,返信メールが届かない場合は,広報課まで連絡いただきますようお願いいたします。